

## トーキョー・エクスペリメンタル・フェスティバル (TEF) Vol. 9

2014年10月31日(金)～2015年1月18日(日)

両国門天ホール、トーキョーワンダーサイト本郷

### ——音の最前線がここに！ TWSが発信するサウンド・フェスティバル

9回目を迎えるTEF。約2ヶ月にわたって実験的な作品を一挙に上演・展示します。

今回も国内外から新しい表現の可能性を追求するアーティストたちが登場！

パフォーマンス、サウンド・インスタレーションを軸に展開される多様な音表現をご体験ください！！

#### TEF パフォーマンス

- 会場は普段から数々の個性的な公演が行われ、TEFとの親和性も高い両国門天ホール
- 公募で選ばれた国内外のアーティストによる7企画が登場。
- 昨年度の最優秀賞、特別賞を受賞した、海外からの2企画に加え、「江戸」をテーマに活動する若手音楽家グループ「<sup>あらいざ</sup>淡座」の企画、合計10企画14公演を上演。ジャンルに囚われない、新しい表現を追求するアーティストの現在に注目！

#### TEF サウンド・インスタレーション

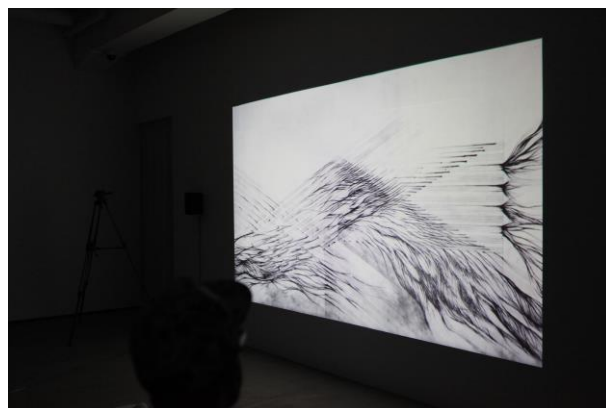
- 会場は 2001年の開館以来、若手アーティストの支援・育成プログラムを中心に事業を展開しているTWS本郷
- 音に対して全く異なったアプローチを取る、気鋭のアーティストによる3企画を展示
- 視覚・聴覚の両面からデザインされた展示空間で繰り広げられる、独自の音世界に注目！

若手アーティストの発掘・育成、そして東京からの発信をサポートするトーキョーワンダーサイトならではのサウンド・フェスティバル—TEFにどうぞご期待ください！

<昨年度 TEF パフォーマンスの様様>



左:ウーゴ・モラレス・ムルグイア+ディエゴ・エスピノーザ「アイテム/マシーン/ボディ」※最優秀賞



右:タナツ・モダバー&ピエール・ムルレ「Harmony for Vanishing Points」※特別賞

<お問い合わせ >

〒130-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーワンダーサイト 広報担当: 石川、市川

TEL: 03-5602-9881 FAX: 03-5602-9882 E-mail: press@tokyo-ws.org

★TWSオフィスは東京都現代美術館内に移転しました。

## フェスティバル概要

## フェスティバル名: トーキョー・エクスペリメンタル・フェスティバル Vol.9

(英語名: TOKYO EXPERIMENTAL FESTIVAL – SOUND, ART &amp; PERFORMANCE Vol.9)

## ■TEF パフォーマンス (10 企画 14 公演) ※各企画の詳細は本紙3~6 枚目をご参照ください。

会場: 両国門天ホール(東京都墨田区両国 1-3-9 ムラサワビル 1-1)

会期: 10月31日(金)~11月16日(日)

入場料: プログラムにより異なる (1000~3000 円)

申込方法: 氏名、電話番号、ご希望の公演名と日時、チケット枚数をご記載のうえ、件名を「フェスティバル申込み」としてE-mail もしくは Fax でお申込みください。(E-mail : ticket@tokyo-ws.org / Fax : 03-5602-9882)

アーティスト: 鈴木ユキオ×山川冬樹、武田 力、ワラビモチ愛好会、淡座、タナツ・モダバー&amp;ピエール・ムルレ、宇都 縁、ウーゴ・モラレス・ムルグイア+ディエゴ・エスピノーザ、デルフィーヌ・デプレ、iOFloat(ライ・チーシャ+リャオ・ハイティン)、久保智美

協力: 一般社団法人もんでん(両国門天ホール)

## ■TEF サウンド・インスタレーション (3 企画) ※各企画の詳細は本紙7 枚目をご参照ください。

会場: トーキョーワンダーサイト本郷 (東京都文京区本郷 2-4-16)

会期: 12月6日(土)~2015年1月18日(日)

休館日: 月曜日(ただし1月12日は開館)、年末年始(12月29日~1月5日)、1月13日

入場料: 無料

アーティスト: 山崎阿弥、大和田 俊、小林 椋

## &lt;公募プログラム審査員(敬称略・順不同)&gt;

一柳 慧 (作曲家、ピアニスト) / 畠中 実 (NTT インターコミュニケーション・センター[ICC] 主任学芸員) /

沼野雄司 (音楽学者、桐朋学園大学教授) / 毛利嘉孝 (社会学者、東京藝術大学准教授) /

黒田みのり (トーキョーワンダーサイト事業課長)

※このほか、2015年1月18日(日)にワークショップ&amp;コンサート、中川賢一×ジョン・ケージ「ソナタとインターリュード」を東京芸術劇場 シンフォニースペースにて開催します。

<URL> <http://www.tokyo-ws.org/archive/2014/08/tef9.shtml>

## 関連プログラム

## ■TEF サウンド・インスタレーション オープニング・トーク

12月6日(土)14:00~ 会場: トーキョーワンダーサイト本郷

ゲスト: 畠中 実氏(公募プログラム審査員/ NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] 主任学芸員)

毛利嘉孝氏(公募プログラム審査員/ 社会学者、東京藝術大学准教授)

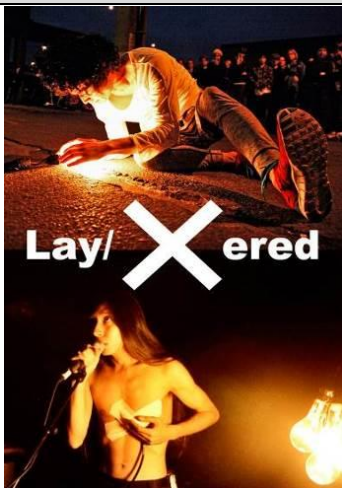
## 広報用画像

フェスティバル広報用画像につきましては、当プレスリリース及びウェブサイトに掲載しているものを用意しております。掲載をご希望される際は、お手数ですが広報担当(1枚目下&lt;お問い合わせ&gt;)までご連絡お願いいたします。

## 【TEF パフォーマンス】 両国門天ホール | 10月31日(金)～11月16日(日)

10/31(金) 19:00～ (上演時間: 50分) チケット: 3000円

## 鈴木ユキオ×山川冬樹「Lay/ered」



「0(ゼロ)」が「1」に立ち上がる瞬間、またはそこで生まれた「1」がさらに連なっていく瞬間をみせる実験ライブデュオパフォーマンス。ひとつの音や動きは、音楽やダンスとなりうるのか。その瞬間にうまれる、新しい世界を掴み取る。

協賛: 株式会社資生堂 協力: 公益財団法人セゾン文化財団

【プロフィール】 鈴木ユキオ/ダンサー、振付家。アスベスト館にて舞踏を始め、2000年より自身の創作活動を開始。しなやかで繊細に、且つ空間からはみだす強靱な身体表現で、多くの観客を魅了する。

山川冬樹/ホーメイ歌手、アーティスト。音楽、美術、舞台芸術の分野で活動。身体内部で起きている微細な活動や物理的現象をテクノロジーによって拡張、表出したパフォーマンスを得意とする。

11/2(日) 13:00～/ 18:00～ ※2公演 (上演時間: 120分) チケット: 1000円

## 武田 力「わたしたちになれなかった、わたしへ」



Photo: matsumoto kazuyuki

「わたしたち」はそれぞれ、無意識に他者へ ghostwrite を依頼し、その脚本に従って「わたし」を形成する。誰もが誰かを操り、また誰かに操られ、その相互関係の網の中で「わたしたち」は生きている。本作では、観客は段ボール箱を被り、箱に接続された糸電話で、見えない他者と会話をする。箱を脱いだとき、あなたの目にそれはどう映り、どんな「わたし」が現れるだろうか。

※参加型、各回定員 15名 協力: 清水山洗心院 法雲寺

【プロフィール】 幼稚園での勤務を経て、演劇カンパニーのチェルフィッチュに参加。ヨーロッパを中心に、海外の様々な土地で公演をおこなう。ほかの出演作に、飴屋法水演出『4.48 サイコシス』や、古民家や三宅島で展開した長島確との共作『アトレウス家プロジェクト』など。本作品のほか現在「教育」をアジア各所で相対化することで日本を解体していく“演劇的”プロジェクトを進行中。

11/3(月・祝) 17:00～ (上演時間: 45分) チケット: 1500円

## ワラビモチ愛好会「ワラビモ調水車装置」



「ワラビモ調水車装置」とは? 水車が使われていた頃のワラビ粉の説明を手伝ったり、皆と一緒に歌を作ったりする装置です。

蕨粉協力: 井上天極堂

蕨粉作り協力: 岐阜県/飛騨地方秋神地区の蕨粉関連の人々

お話協力: 岐阜、愛知、山口県の蕨関連の人々

協力: NODE-LAB、来栖川電算

【プロフィール】 ワラビモチ愛好会会長 (Since 1997)

ワラビモチ関連の色々な活動をしている

2013 N3 ARTLab でのワークショップにて粉づくりワークショップ (山口県)

2012 AAC サウンドパフォーマンス道場入選 WARABI-696

2010 フォルマント兄弟のプレゼンテーション道場入選 ワラウドン

11/4(火)、5(水) 19:00～ (上演時間:90分) チケット:3000円

## 淡座「江戸幻想夢見噺」

★推奨プログラム



古今亭志ん輔師と「真景累ヶ淵」の公演を重ねて3年目となる淡座が、その成果のひとつとして、古典落語「反魂香」をもとにした作品を改訂初演する。語りだけですでに完成しているはずの落語に音を加え、イメージを多層化することにより、新たな面白さを表現する。前半は、新しい挑戦として、泉鏡花作品にひそむ江戸憧憬を現代音楽で描くことをテーマに、いくつかの音楽作品を初演する。

【プロフィール】三瀬俊吾(ヴァイオリン)、藤井 泉(チェロ)、竹本聖子(チェロ)、本條秀慈郎(三味線)、桑原ゆう(作曲)による、現代音楽をベースとするクリエイショングループ。「江戸」に学び、音と言葉の「あわい」を描くことを目的として、2010年に結成。2011年、古今亭志ん輔師をゲストに旗揚げ公演「噺×現代音楽」を行い、それ以来、志ん輔師との共演を重ねている。

11/7(金)19:00～、8(土)15:00～ (上演時間:40分) チケット:1200円

## タナツ・モダバー&amp;ピエール・ムルレ「Harmony for Vanishing Points」

★昨年度特別賞 受賞企画



※7日(金)終演後に出演者によるアフタートークあり

ゲスト 川島素晴氏の出演は事情により中止となりました。

このパフォーマンスの「脱・物質化」の過程は、木炭ドローイングの音への変換で始まる。ピエール・ムルレとタナツ・モダバーは、彼らの国の伝統楽器であるセタールとアコーディオンの音色を拡張・変調し、伝統的な調性感がほとんどないような、複雑なハーモニーを探求する。8ch音響システムを通して、アコースティックな楽器と電子ツールの両方が空間の圧縮と拡張を可能とする。

【プロフィール】タナツ・モダバー/テヘラン生まれ。UCバークレーにて造園と美術を学ぶ。修士号(建築)取得。現在ベルリンを拠点に、インスタレーションや小規模な建築作品等を制作。西洋、イランの古典音楽を学んだ経験が作品制作に反映されている。

ピエール・ムルレ/フランスのミュージシャン・作曲家。パンタン音楽院にて電子音楽、ARPEJ音楽学校にてジャズを学ぶ。コンサート、サウンド・インスタレーション、映画やダンス公演のためのサウンド・デザイン等幅広く活動している。

11/9(日)18:00～ (上演時間:60分) チケット:2000円

## 宇都 縁「suite for senses」



映像とピアノ、3人のパフォーマーのための作品。視覚的な表現には音楽の持つ構造と類似した点が多く潜在し、それらを抽出し構成することで、目で音楽を聞くような体感を得られる。楽譜を見て頭のなかで音楽が流れるのも、視覚を通して音を感じる行為ではあるが、私に関心を持つのはもっと別の、目に見えるものが直接頭で鳴り響くような、無意識で不可避の感覚である。空白の画面上で突然何かが跳ね返る。自分のなかで鋭く一音鳴り響く。緊張と衝撃と高揚——この公演は、静寂からでも豊かな音楽体験を得られる、ひとつの試みである。

【プロフィール】1986年生まれ。主に、音・映像・身体を使ったパフォーマンス作品を制作。2008年国立音楽大学音楽文化デザイン学科卒業。2012年東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修了。ブールジュ国際電子音楽コンクールで受賞。ポーランド、スイス、韓国など各地で公演。

11/12(水)、13(木) 19:00～ (上演時間:90分) チケット:1500円

ウーゴ・モラレス・ムルグイア+ディエゴ・エスピノーザ「アイテム/マシーン/ボディ」★昨年度最優秀賞 受賞企画



※12日(水)終演後にアフタートークあり  
 ゲスト:沼野雄司氏  
 (音楽学者、桐朋学園大学教授)

「アイテム/マシーン/ボディ」は西洋的な価値観に挑み、日用品を従来の楽器や人間の身体と対峙させる試みである。自動車のラウドスピーカーの音やアルミの棒をこすって発せられる音から、マリンバやビブラフォンの洗練された音、トライアングルのシンプルな音、改造した南米の木箱(カホン)までを、技術的にも熱意も音楽の重要性も同等に扱う。更には身体の役割を問い、そこに蓄電されたエネルギーまでも音楽表現の手段とする。

【プロフィール】作曲家と打楽器奏者によるデュオ。演奏テクニック、物理的な音声処理、さまざまなテクノロジーの使用によって、楽器の原則や従来の演奏の枠組みに疑問を投げかけるような活動を行なっている。彼らは既存の楽器の価値に立ち向かうだけでなく、音楽を思想、天性のものあるいはコンセプトの集合体と考えるよりも、「どこにでも耳を傾ける」という姿勢を提案している。

11/14(金)19:00～ (上演時間:45分) チケット:1500円

デルフィーヌ・デブレ「Aral」



スイスのミュージシャン、D'incise の楽曲にもとづくパフォーマンス。ビーズ、砂、粉末や水といった物質による、ミクロの世界での出来事を「上演」する。スピーカーの上に物質を置き、振動により動き出す様子をビデオカメラで捉え、プロジェクターで映し出す。物質同士がぶつかり合って生まれるノイズが、スピーカーから流れるサウンドに重なる。尺度の変化により、無限小の中に無限大があるということが示唆される。

【プロフィール】ビジュアル・アーティスト、映像作家、パフォーマー。2008年ジュネーブ造形芸術大学卒業。投影されたイメージの中の演劇性に着目し、研究・実験・創作を行なう。ビデオ機器を駆使して、さまざまなレベルで「リアルタイムの」体験を生み出し、緊張感を創出する。デブレは日常にある、取るに足りない物質を操り、多くの場合、サウンド・アーティストと密接に関わって制作をしている。

11/15(土)18:00～ (上演時間:40分) チケット:1000円

iOFloat(ライ・チャーシャ+リャオ・ハイティン)「パーカッション・ミュージキング」



「パーカッション・ミュージキング」は、音楽創造と、そのさまざまな次元における「現場」との関係性を再考する過程を通して、打楽器演奏の可能性を探る冒険。照明、モノ、音の相互作用をテーマとした40分間の公演では、ファウンド・オブジェクト、楽器、特製の電子サウンド・オブジェクト、ライブ・サンプリング、来日中に録音する音素材を駆使し、即興をベースとしたパフォーマンスが展開される。

【プロフィール】打楽器奏者のライ・チャーシャとリャオ・ハイティンは2009年よりコラボレーションを開始し、2012年に実験音楽グループiOFloatを結成。多分野にわたるアート・プロジェクトを台北、パリ、ベルリンで発表。現在、ライはヘルシンキで博士課程に在籍し、メディア・テクノロジーと打楽器演奏の可能性について研究。一方、リャオはパリ国立高等音楽院卒業後、台湾を拠点に現代音楽や実験音楽の分野で活躍している。

11/16(日) 18:00～ (上演時間:90分) チケット:3000円

久保智美「独宴会」



オンド・マルトノ 1 台を前に、何を、どんなことを、どれだけ出来るか？オンド・マルトノ独奏の為に書かれた作品を軸に、山根明季子氏の新作初演や、ヴァレリオ・サニカンドロ氏のオンド・マルトノ、テルミン、ライブエレクトロニクスの為に書かれた作品の日本初演をプログラミング。ゲストに有馬純寿(ライブエレクトロニクス)、トリ音(テルミン)。

【プロフィール】国立音楽大学卒業後、渡仏。フランス国立ブローニュ・ビーヤンクール音楽院オンド・マルトノ科を満場一致の第1位で卒業。オーケストラ、室内楽、コンテンポラリーダンスとの共演、映画やTVドラマの劇伴に参加するなど、オンド・マルトノの面白さを伝えるべく、ボーダレスな活動を魅せている。これまでオンド・マルトノを原田 節、パスカル＝ルッス・ラコルデール両氏に師事。

【TEF サウンド・インスタレーション】 トーキョーワンダーサイト本郷 | 12月6日(土)~2015年1月18日(日)

### 山崎阿弥「静かな部屋、うたうまで」



『ソング／もとのけもの、リズム』  
(2013年 青森公立大学国際芸術センター青森)  
撮影: 山本 糾

静かな部屋が見つかる。先に見つけて、羽根は、居心地の良い場所で仮死。  
静かな部屋が随分前からうたってきたうたを聞きつけて。  
「ささやかで、すぐには聞こえないから、遅れてきたあなたは、少し待って、  
あなたを取り巻く夜が少しずつ明けるまで」  
数万の羽根が作る濃密な静寂は、部屋が生まれたときから持つ固有の響きの  
似姿です。その響きの中で聞こえてくる音は、あなたの似姿です。

【プロフィール】声のアーティスト、映像・造形作家。声で空間の陰影を感得しイン  
スタレーションやパフォーマンスによってその濃淡を引き出したり／失わせたり  
することを試みる。2013年はロイヤルメルボルン工科大学と青森公立大学国際  
芸術センター青森にレジデンス、作品発表。生西康典演出作品への出演、灰野  
敬二とのデュオ、伊勢神宮での歌唱、沢口真生とのサラウンド音楽制作など分  
野を亘り共創する。

### 大和田 俊「dissolution」



©Ryohei Tomita

音響は、聴覚の対象であると同時に、大気の状態変化でもある。音が鳴ると、物  
体はこの変動を受けとり、応答する。本作において私は、栃木県旧葛生町で産  
出する石灰石を扱う。この石灰石には、フズリナと呼ばれる2億5000万年前に  
絶滅した生物によって固定された二酸化炭素が含まれる。この二酸化炭素を再  
発生させるプロセスを通じて、何かを(勝手に)受けとり、応答してみたい。

【プロフィール】1985年生まれ。サウンドアーティスト。音響と生物としてのヒト  
の身体や知覚、または環境との関わりに関心を持ちながら、音響作品やイン  
スタレーションの制作を行っている。東京藝術大学音楽学部卒業、同大学院美術  
研究科修了。

### 小林 椋「ヨコとか下とか」



能動的な「聴く」行為によって分節化されていない状態の音。それは普段、意識  
に上ることなく場や空間になんでもなく“在る”音である。そんな、なんでもない  
音の地平に対して、装置が発する音もなんでもない音として投げかけられる。  
そこには人の聴取とは関係なく、なんでもない音の地平と装置の発する音との  
つながりがただ“在る”だけである。

【プロフィール】1992年、東京生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸  
術コース4年に在籍。同大学で2年次まで建築・ランドスケープデザインなどを学  
び、3年次に現学科・コースに転科。現在はメディアアートを専攻。  
簡単な動きをする装置や廃材などのモノを用いたインスタレーション作品などの  
制作を行っている。